

若狭ネット

第129号 2011年 4月23日

発行：若狭連帯行動ネットワーク

代表連絡先●福井：「止めなくちゃ！」

げんぱつ」連絡会(〒915-0235 越前市不老町6-36 山崎方 TEL0778-42-3630)●大阪：日高原発に

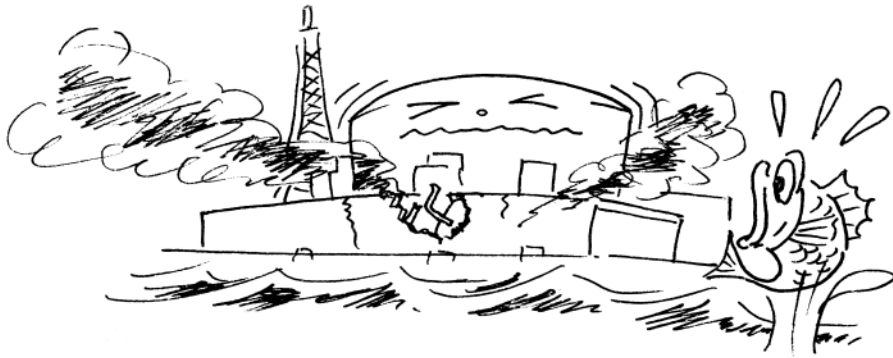
反対する大阪の会(〒583-0007 藤井寺市林5-8-20-401 久保方 TEL/FAX 0729-39-5660)

ホームページ <http://www4.ocn.ne.jp/~wakasant/>

E-mail : wakasa@gaea.ocn.ne.jp

いつ ヒバクさせられるか ビクビク生活はイヤ!

すべての原発を止めよう!



【大地震、津波から冷却できず水素爆発を起こす 福島第一原発事故 2011年3月11日発生】

放射能汚染は ますます深刻化している。

福島第一原発重大事故で放出された大量の放射能。

放射性希ガスは ほぼ全てが放出され、

揮発性の放射性ヨウ素やセシウム137は、

チェルノブイリ事故の10分の1相当に。

不揮発性のストロンチウム90も、北西30km圏外の土から

核実験によるフォールアウトの数十倍の濃度で検出された。

プルトニウム239も、原発敷地内から、

フォールアウト・レベル相当の濃度で検出されている。

政府による事故評価(INES)は、チェルノブイリ原発事故と

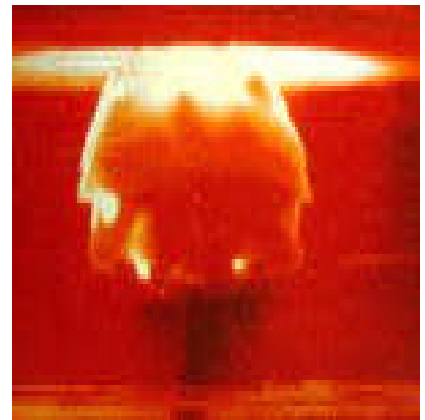
同じレベル7に。

しかし、事故は収束しておらず、放射能放出は長期間継続し、

最悪の場合にはチェルノブイリ事故を超えるおそれがある。

北西30km圏外のホットスポットでは、政府評価でも、ヨウ素と

セシウムによる外部被曝線量だけで数十ミリシーベルトを



(1954年3月1日、水爆実験

第5福竜丸ヒバク)

「雨が体に当たらないように」

と親に言われる

すでに超え、そこに住み続けると年間数百ミリシーベルトに達する。
さらに、ヨウ素による内部被曝は100ミリシーベルトを超えている。
健康障害は避けられない。

配管・機器の破損部や弁から放射能汚染水が漏れ出している。
それだけに留まらず、1号炉の炉心では大半がどろどろに
溶けその多くが圧力容器の底に落下した。

2、3号炉でも炉心の約半分が溶融し、
一部が落下したと思われる。

これらの原子炉では圧力容器が破損し、
1号炉では4月9日に再臨界した可能性がある。

4号炉の使用済核燃料貯蔵プールでは、
あれだけ大量の注水が継続されたにもかかわらず、
4月12日に水温は90℃に上昇、放射線量は6m上空で
毎時数十ミリシーベルト、通常の数千倍が観測された。

プールに亀裂が生じて水が失われ、
燃料棒が著しく破損している可能性がある。

破壊された原子炉建屋から、
水蒸気・水素ガス・放射性希ガス、
揮発性の放射性ヨウ素やセシウムなどが
大気や地中や海へ放出。

プルトニウムなど不揮発性の放射能も放出されている。

1ヶ月以上経っても 原発重大事故は収束していない。
注入された海水など約6万トンが 高濃度の放射能汚染水
となってタービン建屋の地下や
屋外のトレンチ内に溜まっている。

これが すさまじい高放射線環境を作りだし、
電源復旧工事を妨げ、炉心冷却システムの機能回復を
困難にしている。

この作業で、5年間の累積被ばく限度100ミリシーベルト以上
を被ばくした労働者は4月14日現在、28名。

うち最高は198ミリシーベルト。

緊急時だからと限度を250ミリシーベルトに引き上げ、
「まだ被ばくさせられる」と東電は言う。

1万トン余の放射能汚染水が意図的に
海中に投棄され、魚介類を汚染している。
漁業に深刻な打撃を与えている。



(福島第1-3号炉 水素爆発3月14日)



(紙芝居一りさちゃんのパパより)

3月11日のM9.0の地震動は基準地震動をはるかに超えた。
 配管、弁、機器を破損した可能性がある。
 炉心冷却システムの機能回復は容易ではない。
 相次ぐ余震も事故収束を妨げている。
 4月7日の宮城県沖スラブ内余震(M7.4)では、
 強い鉛直地震動が女川原発を襲い、
 基準地震動Ssを超えた。
 東北の基幹変電所が破壊され、東通原発と
 六カ所再処理工場で外部電源がすべて遮断、
 女川でも3つの回線のうち2つの回線が遮断された。
 福島原発近傍でこのような余震が起これば、
 事態は一挙に悪化する。
 現に、4月11日の福島県浜通りの余震(M7.1)では、
 福島第一原発1～3号炉の外部電源がすべて遮断され、
 50分間にわたり炉心への注水不能状態に陥った。

放射能汚染は一体どこまで深刻化し、広がるのだろうか。
 そして、いつまで続くのだろうか・・・。
 電力会社や政治家・官僚・御用学者たちは、
 「想定外の大地震、大津波だった。」と、
 責任回避にやっきとなっている。
 今まで、歴史的に大きな津波が起こったことを指摘され、
 「今後考慮する」と言いながら、小さな評価で良しとしたにもかかわらず。
 実際に起こってしまうと、「想定外」と言っていい逃れをしようとする。

地震・津波による原発重大事故の警告を
 無視し続け、今なお正当化しようとする者は、
 現実に起こった重大事故の恐怖を真正面から
 直視すべきである。
 私たちを危険な道に押しとどめ
 引きずり込もうとするのはもうやめてほしい。
 がまんすることはない。
 「真実を知りたい、深刻さを知りたい」と、
 唇をふるわせて怒るべきときだ！

ヒバクにおびえる日々を暮らすなんて
 まっぴらだと、闘い続けた30年 ---
 このような悲惨な事態を防ごうと闘ってきたのに・・・。



(チェルノブイリ事故後、ベラルーシの子の絵)

あーあ・・・、絶望と、憤りが頭の中を駆け回り、
手足の先々までふるえをよぶ。
夢の中で、「これは現実ではないのだ！」と叫び、悪夢にうなされる。

原発推進をかかげた国、政権を担ってきた自民党や
民主党はどんな責任をとるつもりなのだろうか。
メーカーや電力会社は、どんな責任を……。

ある電力会社は、恥ずかしげもなく、
「日本は原子力でしか生きることができない社会だ」と断じ、
「それでも原発は必要だ」と言い張る。
これが公益事業を担う企業の声であるとは――
なんともはや、空しさが広がる。
地域のエネルギーを支え、生活を守るという
企業の姿は浮かんでこない。

「大型の原子力発電所をどんどん建て、電気エネルギーを
大量に消費できる社会が素晴らしい」と、言ってきた推進者
たちは、どんな反省を口にしようというのであろうか。

「原発」という怪物を解き放ったため、
今、福島第一原発では、炉心溶融事故から
メルトダウンによる水蒸気爆発の危機に直面している。

事態を収束させるためには
労働者の高線量被爆が避けられない。
避難生活を続ける津波被災者の
頭上に放射能が降り注ぎ始めている。

「その責任の一端は、原発を止められなかった
私たち1人ひとりにもあるのでは」と、ふっと思ひ・・・
そして、今こそ「脱原発に向かって動き出すべきとき」と、叫ぶ。

私たちは、福島第一原発の重大事故を目の前にしてなお、
黙って見過ごすことができるのだろうか

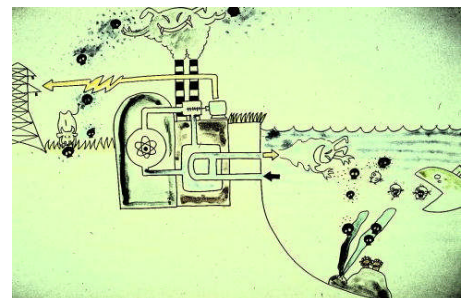
――「電気は必要、だから原子力に頼ろう」という言葉を。
本当に、原発重大事故による放射能災害を容認できるのだろうか。（紙芝居ーりさちゃんのパパより）
危険なプルトニウムや「死の灰」を何百年、
何千年と管理し続けることを子孫に強要できるのだろうか。



福島第2-1号炉 巨大津波。
浸水高は最大約15メートル、
道路が水没 （東京電力提供）



（紙芝居ーりさちゃんのパパより）



（紙芝居ーりさちゃんのパパより）

まず、すべての原発を止めよう。
 運転・建設・計画の全面停止を求めよう。
 耐震設計と耐震評価を根本的に見直し、
 耐震性のない原発を廃炉にしよう。
 原発システム輸出をやめさせよう。
 プルサーマル計画を中止させ、
 高速増殖炉「もんじゅ」や
 六ヶ所再処理工場の閉鎖を求めよう。
 原子力関連予算を大幅に削減させ、
 津波災害復興に使わせよう。
 そして、知恵を出し合い、脱原発社会へ突き進もう。
 地域で生きづく再生可能な環境に優しい
 エネルギー政策を出し合おう。
 都市や物流のあり方を考えなおし、
 都市・交通計画を見直そう。
 オール電化ではなく、化石燃料エネルギー
 と電力を適切にバランスさせ、
 再生可能で再循環できる
 自然エネルギーを活用しよう。
 その中で、新たな雇用を創出・・・など、など。



2011年4月16日 御堂筋行進
 緊急にもかかわらず、3500人が結集。
 「全ての原発を止めよ！」と大合唱。

みんなで知恵を出し合い、
 原子力に頼らない社会、
 夢の語り合える社会をつくらう。

できないことはない。
 そして、それは、
 決して不便な社会ではない。
 安心して人間が生きていける社会。
 生きていることを共有しあい、
 協力しあえる豊かな生活!
 今まさに立ち上がるべき時だ。

さあ、さあ、さあ ……

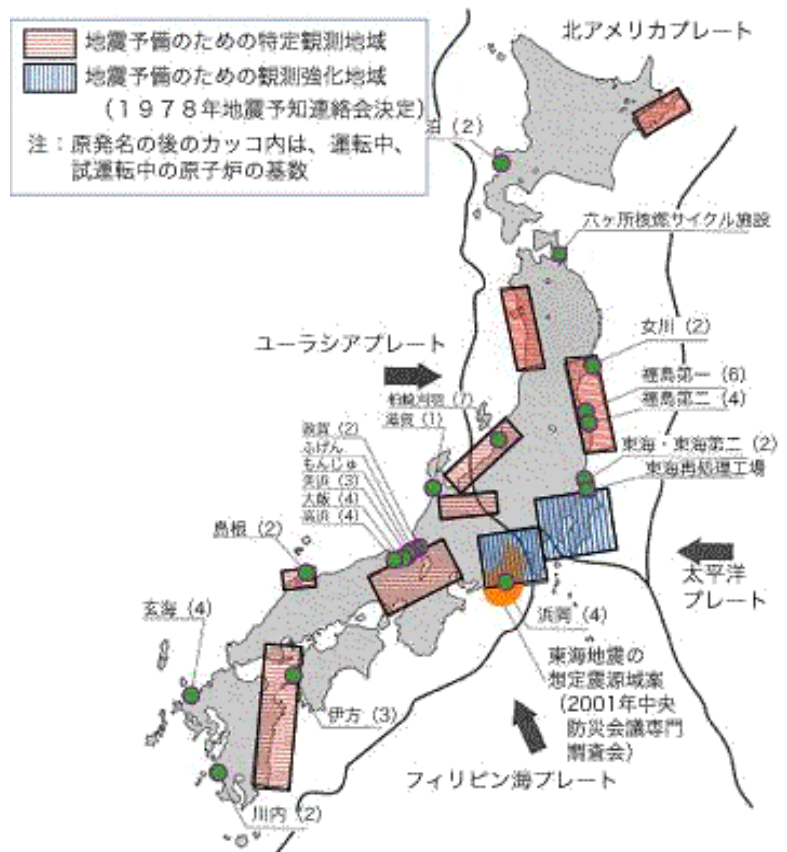


図4 日本付近のプレートと原子力発電所
 (「原子力市民年鑑 2002年」より、一部改変)

「森の国から」 新聞折り込み基金へのお願い

「森の国から」を期待している声を、今日も聞きました。これからも新聞折り込み基金にご協力をお願いします

松下(美浜町)

新聞折り込み基金： 1口五百円 (何口でもよろしくをお願いします)

1口で 約80軒に 新聞折り込みできます。

振替口座 若狭ネット 00940-2-100687 ご連絡は、久保まで 072-939-5660

「編集後記」

・3月27日イギリスのマンチェスターから ウラン兵器禁止を求める国際連合(ICBUW)のメッセージが届きました。低線量被曝の問題が出されていました。その通りだと思いました。

(抜粋) ICBUWはウラン兵器禁止とその被害者支援のために活動しています。劣化ウラン被害者は、戦争による破壊だけでなく、それに加えてウラン兵器による放射能汚染の被害に苦しんでいます。低線量放射線は、直ちに危険を及ぼすとはいえませんが、最終的にはなんらかの健康影響をもたらすのです。低線量被曝を、医療被曝や自然のバックグラウンド放射線と比較することによって、軽視することは正しくありません。子どもたちや妊婦を守る配慮がなされるべきです。放射能汚染の脅威のない平和な世界に向けて、進みたいと思います。そのような世界を享受することは、全ての人々の基本的人権です。私たちは日本から地理的には遠く離れていても、私たちの心はいつも皆さんとともに、被災された方々とともにあります。

きよ子